

萬鉄五郎記念美術館

東和エリア
美術ニュース

no.16

1 2015.

月号

KONOMA
木の問通信

開館30周年記念 花巻市共同企画展「ぐるっと花巻 再発見！」

「晴山 英」展 —湧きあがる色彩 未知なるフォルム—

2014年11月29日(土) ~ 2015年2月1日(日)

●会場：萬鉄五郎記念美術館



- 1.《今日》1990年/油彩・画布
- 2.《作品93》1982年/油彩・画布
- 3.《ウルムチ23時》1988年頃/油彩・画布

●休館日

月曜日(祝日の場合はその翌日)

●開館時間

8:30 ~ 17:00(入館は16:30まで)

●入館料

一般 500(450)円

高校・大学生 300(250)円

小・中学生 200(150)円

* ()内20名以上の団体料金



花巻市東和町出身の父親のもと盛岡に生まれた晴山 英(はれやま えい1924-2011)は、岩手を代表する女流画家です。彼女は、一貫して自己の奥深くから

湧き上がるイメージを源流とする、混沌と調和を繰り返しながらうごめく不思議なフォルムと湧きあがる色彩によって、心象風景と呼ぶにふさわしい超現実性を帯びた絵画世界が広がっています。本展では、2011年に亡くなった晴山の初の遺作展として、生涯にわたる作品87点を紹介し、その表現性のありかを探ります。

土澤アートクラフトフェア

(旧名：アート&クラフト《土澤》マーケット)

《参加者募集》

2015年5月3日(日) 4日(月・祝) 10:00～16:00

アート作品・クラフト作品などクリエイターのお店150店を募集します。

●募集対象 アート(美術)やクラフト(工芸・民芸)などの手づくり作品を対象とするものです。プロ・アマ、作品の形やジャンルも問いません。個人でもグループでも参加できます。

<出店できる例>

◆美術作品、工芸作品(絵画、彫刻、写真、陶芸、イラスト、木工品など)

◆手づくり品(雑貨、アクセサリ、リメイク服など)

◆自作の歌(CD)、自分で書いた本(同人誌、詩集、自費出版本など)

◆アート関連(実演[似顔絵など]、美術関係の書籍、画材など)

*フリーマーケットとは違いますので、リサイクル品や中古品の出店はお断りします。

●会場 土澤商店街&美術館前庭(花巻市東和町土沢)

●出店料 A区画5,000円 B区画3,000円 C区画2,000円 プレミアム区画(要審査)2,000円

●募集期間 2015年2月2日(月)～14日(土) ※先着150組

●申込・問合せ先 土澤アートクラフトフェア事務局

花巻市東和町土沢5-405「キキヤ薬局」内 電話：0198-42-2632 メール：tuchizawa_market@yahoo.co.jp

ホームページ：http://arttsuchizawa.com/ ブログ：http://arttsuchizawa.blog.fc2.com/



萬鉄五郎記念美術館 休館のお知らせ

萬鉄五郎記念美術館は、平成27年2月2日～3月末まで、館内改装工事のため全面休館いたします。何卒ご理解賜りますようお願いいたします。

また同期間は、隣接「八丁土蔵」も休館いたしますのでご了承ください。

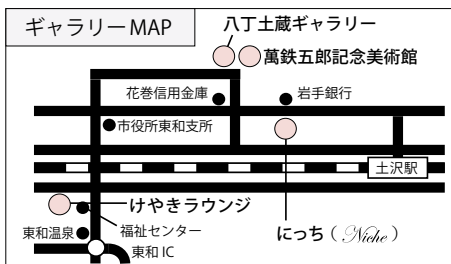
喫茶「八丁土蔵」



萬鉄五郎の本家「八丁」にあった土蔵を移築復元した、ギャラリーと喫茶スペースです。自慢のオリジナルコーヒー「蔵」「八丁」を、ぜひ一度ご賞味ください。 営業時間：10:00～16:00 (lo.15:30)

美術の街「土沢」 ギャラリー情報

萬鉄五郎記念美術館とあわせて、「美術の街」土沢めぐりをしてみてはいかがでしょうか。



萬鉄五郎記念美術館

八丁土蔵 ギャラリー

花巻市東和町土沢 5-135
萬鉄五郎記念美術館内
9:00-16:30 月曜休(祝日の
場合は翌日) 入場無料

iwate コンテンポラリーアート

新田コージ 展

—原初の記憶—

2014年 2015年
11月29日(土)～2月1日(日)

花巻在住の画家による静謐な世界



Gallery Space けやきラウンジ

花巻市東和町安俵6-90 東和図書館内 tel.0198-42-3205
10:30～19:00 (最終日は16:00まで) 入場無料

佐藤清美氏コレクションⅡ ＝作家との出会い＝ 展

1月5日(月)～1月31日(土)

佐藤氏の厳しい審美眼により選ばれた岩手ゆかりの名作を展示します。



けやきの会コレクション展

2月1日(日)～2月28日(土)

会員秘蔵の小品展です。



世界の雑貨とギャラリー

にっち Niche

花巻市東和町土沢8-115
こっぼら土澤1階
11:00～17:00
火曜定休 入場無料

羊いっぱい 展

1月21日(水)～2月2日(月)

木工作家、切り絵作家、羊毛作家。三人の羊をキーワードにした作品展。



レンブラントと「和紙」

昨年11月、パリで開催されたユネスコ（国連教育科学文化機関）の委員会会で「和紙」が無形文化遺産登録に決定された。一昨年の「和食」に続き、日本の檜の木（ヒノキ）の皮を使った「手漉き和紙技術」が、高く評価されて、今回、細川紙（埼玉県）、本美濃紙（岐阜県）に石川半紙（島根県）が「和紙」として一括登録となった。

和紙は全国で作られており、柔らかく破れにくく丈夫で、昔から土地台帳や商家の帳簿として使われ、一千年以上の長い歴史を持つものもある。岩手県には、一関市東山町の「東山和紙」と花巻市東和町の「成島和紙」がある。成島和紙は日本最北の和紙として知られ、主に冬期間に紙すきを行って現在に継承されている。

17世紀オランダを代表する画家レンブラントは、西洋絵画史上の、最も偉大な画家の一人である。オランダの至

宝である代表作『夜警』は最も有名で、レンブラントは阿姆斯特ルダム自治を守る市民警備隊員の集団肖像画として注文を受けたが、全員を均等に描く約束ごとを無視して、自警団の隊長が号令を発する劇的瞬間を躍動的に描いた傑作。人物の斜め上からの光、「レンブラント・ライト」と呼ばれるその光が感情表現に力を与え、作品に命を吹き込んでいる。レンブラントの独自の「光と影」の演出法である。

レンブラントはまた、世界で最もすぐれた銅版画家（エッチング）で、数多くの傑作を残している。私にとって銅版画鑑賞の原点はレンブラント版画で、それを超える銅版画はないとさえ思う。それだけ技量、内容が神わざの域に達している。その銅版画に使われた紙の約8割が「和紙」である。当時のオランダは東インド会社を中心に活発な海上貿易を展開して経済的繁栄を極めていた。オランダは、江戸幕府との交易権を独占、アジア貿易の主導権を握っていた。東インド会社は日本、東南アジアと貿易を行い、香辛料の貿易で巨万

の富をオランダにもたらした。その長崎出島から海を渡った、当時高価で珍しかった「和紙」をレンブラントが好んで銅版画に使った。

和紙の他にインド紙、中国紙も使っているがそれは僅か。西洋紙は白が特徴で、彼は廉価版に西洋紙、豪華版に和紙を使っている。和紙の耐久性が選択理由のひとつかもしれないが、「淡い黄色の和紙がレンブラント特有の光と闇の表現に適していたのだ。これは日本人として実にうれしいことだ。レンブラントは「ジャポニスム」の先駆者と言える。

萬鉄五郎記念美術館館長 中村光紀



レンブラント・ファン・レイン《3本の木》
エッチング、ドライポイント 1643年 国立西洋美術館蔵

当時オランダで「風景画」が、世界に先がけて独立のジャンルになった。

萬鉄五郎記念美術館 岩手県花巻市東和町土沢 5-135 Tel.0198-42-4402 8:30am. ~ 5:00pm.

yorozu00@cocoa.ocn.ne.jp <http://www.city.hanamaki.iwate.jp/bunkasports/501/503/p004177.html> 月曜休館（祝日の場合その翌日）

発行人／東和町土沢商店街商店会連絡会会長小原茂明